

2023年度

# ボートレースチャリティ基金 協力報告書



ボートレース  
チャリティ基金委員会

# ボートレースチャリティ基金とは



ボートレースチャリティ基金は、2001年に、日本財団会長笹川陽平氏がWHOハンセン病制圧大使に就任したことを機に、ハンセン病に苦しむ人々の支援のため、公益社団法人日本モーターボート選手会の声掛けにより設立されました。

基金の原資は(1)選手会全会員からの寄付、(2)チャリティイベントやレースの優勝賞金等選手個人やボートレース関係者からの寄付、(3)チャリティオークションの実施、からなっており、(1)はボートレースチャリティ基金選手会口、(2)-(3)は同オークション他口に積み立てられています。選手会口は、ハンセン病患者・回復者やその家族の教育支援に、オークション他口は生活環境改善、経済自立支援、ハンセン病対策や災害支援等幅広い用途で使用されています。

毎年、日本モーターボート選手会代表、チャリティオークションを運営する日本レジャーチャンネル代表取締役、日本財団理事、笹川保健財団会長からなる「ボートレースチャリティ基金委員会」にて、前年度の事業実績の確認と次年度の基金の使途の検討が行われます。

# 2023年度支援事業一覧



2023年度はポートルースチャリティ基金から以下の4事業を支援しました。

事業名	支出額	
<strong>選手会口</strong>		
バングラデシュ ハンセン病回復者への寺子屋教育支援	¥3,657,847	
<strong>オークション他口</strong>		
バングラデシュ ハンセン病回復者のメンタルヘルス向上支援（2022年度からの継続事業）	¥926,780	
エチオピア オロミア州ハンセン病回復者緊急支援（2022年度からの継続事業）	¥1,136,364	
ネパール ハンセン病回復者の自立に向けた教育・職業訓練支援	¥5,134,317	
	オークション他口計	¥7,197,461
<strong>総計</strong>		¥10,855,308



# 選手会口

選手会口は選手会所属の全ボートレーサーの皆さまから頂いたご寄付からなっており、ハンセン病患者・回復者及びその子どもたちに対する教育支援に使用されています。

2003年度から2017年度まで15年間で第1次～第4次教育支援を行い、インド、ネパール、中国、フィリピン、インドネシア、ベトナム7か国において、のべ5,525人が小中学校、高校、大学、専門学校へ通う事が出来ました。2019年度から2023年度までは、第5次教育支援として、WHOハンセン病制圧大使が訪問し視察を行ったインドとバングラデシュで支援を行い、のべ1,187人が教育を受けることができました。

## 収入／支出状況

2024年3月31日現在

収入年度 事業名	収入	支出	事業期間
2002年度 第1次教育支援	¥ 15,310,000	¥ 14,952,585	2003-2009年度
2008年度 第2次教育支援	¥ 12,585,965	¥ 11,947,129	2009-2013年度
2010年度 第3次教育支援	¥ 11,908,005	¥ 10,663,364	2010-2014年度
2014年度 第4次教育支援	¥ 15,000,000	¥ 15,613,005	2014-2017年度
2019年度 第5次教育支援	¥ 15,000,000	¥ 16,565,141	2019-2023年度
<b>総計</b>	<b>¥ 69,803,970</b>	<b>¥ 69,741,224</b>	

残額 ¥62,746

## バングラデシュ

## ハンセン病回復者への寺子屋教育支援

支援先 ALOソサエティ、TLMバングラデシュ

事業期間 2023年10月1日～2024年3月31日

支援額 ¥3,657,847

バングラデシュの2022年のハンセン病新規患者数は2,988人と世界で5番目に多く、特に最貧地区で蔓延しており、ハンセン病は現在も公衆衛生上の課題です。患者や回復者は社会から孤立し、教育・医療・雇用等の機会が制限されています。

ALOソサエティは2014年に設立された当事者組織で、89の連盟と1,500の自助グループに会員17,000人を有し、バングラデシュ全64地区のうち40地区で活動しています。支援団体のTLMは1874年にアイルランドで設立された英国の国際NGOで、1926年からバングラデシュで活動しています。

TLMバングラデシュの調査では自助グループメンバーの37.8%が教育を受けておらず、その多くが日雇い労働に従事しています。バングラデシュの初等教育への就学率は97.85%（教育省）と、ほぼすべての子供が小学校に入学しているものの、退学率が18.6%（40人クラスで7人）と高いことが問題となっています。貧困家庭では子どもも労働力であり、就労のため欠席が増えた子どもは学校の授業についていけず退学につながるケースが少なくありません。しかし、将来待遇の良い仕事に就くためには教育を受けていることが不可欠です。

本事業では、ALOソサエティのメンバーやその家族から、大学生100名を選び、学業継続のための少額の支援金を支給する代わりに、彼らがコーチとして小中学生への学業支援と、これまで学校で勉強する機会に恵まれなかった大人への読み書き計算等の教育支援を無償で行いました。

今期は、半年間という短い期間でしたが283名の小学生と213名の中学生が、放課後ほぼ毎日、宿題や学校の勉強の補習を大学生コーチから受け、学校での成績を上げることに成功しました。また、210名の大人が読み書き計算教室に参加し、契約書に自分でサインしたり、賃金の計算ができるようになりました。学んだことが生活向上に直結したことで、教育に対するコミュニティの意識も大きく向上しました。加えて、コーチ役の大学生の学業に対する意欲や自己肯定感が上がったことも特筆すべき成果と言えます。大学生の中には、今後少額支援の対象から外れても、無償でコーチングを継続することを表明している者もあり、相互扶助の精神のもと、受益者によるコミュニティへの貢献という形でプロジェクトが持続されることが期待されています。





# オークション他口

オークション他口は、ボートレーサーの方々からご提供いただいたグッズをオークションにかけた収益金（下記、オークション）と、チャリティイベントやレースの優勝賞金等選手個人やボートレース関係者からの寄付（下記、オークション以外）から成り立っています。オークション他口では、各国のハンセン病患者・回復者やその家族の生活環境改善や経済自立支援、ハンセン病対策や災害支援など様々なプロジェクトを行っています。

## 収入／支出状況

2024年3月31日現在

収入年度	収入			支出
	オークション	オークション以外	合計	
2001-2019	¥ 64,149,511	¥ 57,597,024	<b>¥ 121,746,535</b>	<b>¥ 110,115,832</b>
2020	¥ 9,226,377	¥ 1,612,000	<b>¥ 10,838,377</b>	<b>¥ 6,251,613</b>
2021	¥ 6,189,942	¥ 1,452,000	<b>¥ 7,641,942</b>	<b>¥ 6,868,001</b>
2022	¥ 5,421,772	¥ 1,713,200	<b>¥ 7,134,972</b>	<b>¥ 8,070,469</b>
2023	¥ 5,640,525	¥ 1,648,284	<b>¥ 7,288,809</b>	<b>¥ 7,197,461</b>
<b>総計</b>	<b>¥ 90,628,127</b>	<b>¥ 64,022,508</b>	<b>¥ 154,650,635</b>	<b>¥ 138,503,376</b>

残額 ¥ 16,147,259

バングラデシュ

(2022年度からの継続事業)

## ハンセン病回復者のメンタルヘルス向上支援

支援先 ボグラ連合、レプラ・バングラデシュ

事業期間 2023年2月1日～2024年1月31日

支援額 ￥926,780 (2023年度) (2022-2023年度合計￥4,372,485)

バングラデシュではハンセン病に対する偏見と差別が依然として根強く、患者・回復者は社会的に排除されたり、家族からも見捨てられるなどの困難に直面しています。特に女性への影響は大きく、うつ病や精神疾患を発症するケースが多いため、精神的支援が求められています。

ボグラ連合は、2014年に認可を受けた地域密着型の当事者組織で、ボグラ県内の12地区にわたる101の自助グループに1,030人（男性474人、女性556人）のメンバーが参加しています。支援団体のレプラは1924年設立の英国の国際NGOで、2000年にバングラデシュでの活動を開始し、ボグラ連合を創設から支援しています。2018年からハンセン病当事者の中から一定の基準を満たす人をカウンセラー（メンタルモチベーター）として訓練し、ハンセン病患者・回復者のメンタルヘルス対策の向上に取り組んでいます。

2023年度は、障害をもつ300人を対象に、メンタルヘルスに関する認知度向上と不安や抑うつを軽減を目的とした取り組みを実施しました。

プロジェクトは3つのステップで行われました。第一段階では、すべての対象者がメンタルモチベーターによるガイドラインの説明や抑うつ症状テストを受け、悩みを相談する機会を持ちました。次の段階では、問題を抱えると判断された患者を、ボグラ連合事務所に常駐する専門家によるカウンセリングに繋ぎました。そして、さらに重篤な場合には、専門の医療機関に紹介しました。

この3つのステップを制度化し行うことで、150名がボグラ連合事務所でのカウンセリングを受け、30名が専門病院を受診するなど、多くの人々がメンタルヘルスサービスにアクセスすることができました。また、ボグラ連合がハンセン病当事者のケアの中心的役割を果たせるよう、団体の能力を強化することもプロジェクトの重要な要素でした。

2023年度終了時点での調査では、91%がメンタルモチベーターによるサポートを有益と感じ、73.7%がメンタルヘルス問題に関する知識が向上したと回答しました。



## エチオピア

(2022年度からの継続事業)

## オロミア州ハンセン病回復者緊急支援

支援先 ENAPAL (エナパル・エチオピアハンセン病回復者協会)

事業期間 2023年3月20日～2023年11月30日

支援額 ¥1,136,364 (2023年度) (2022-2023年度合計¥5,231,006)

エチオピアでは、各民族の武装勢力が北部ティグレ州をはじめ各地で活動しており、特にオロミア州では2019年からオモロ人、アムハラ人の武力対立が激化し、襲撃が相次いでいます。2020年後半から続く干ばつでも過去数十年で最も深刻な被害が出ており、政府やNGOの活動が安全上の問題から制限されている状況です。

ENAPALは1996年に設立されたハンセン病当事者組織で、エチオピア全土に75の支部と2万人を超えるメンバーを擁します。リハビリ、障害予防、当事者の能力開発、教育、人権問題、差別撤廃活動、干ばつ等の緊急対応や災害対策にも取り組んでいます。

オロミア州のハンセン病当事者の居住地は首都アディスアベバから160kmに位置し、2022年12月に武力勢力による襲撃で、家畜や資産の略奪、誘拐が発生し、障害者や高齢者を含む15名以上が犠牲となりました。

現地では、危険な状態が続いたため、被災者に支援を届けることは容易ではありませんでしたが、

ENAPALのオロミア州出身のメンバーが長年にわたり現地関係者との良好な関係を有しており、地理的關係や安全上の問題についても熟知していることから、紛争の合間を縫って、8月に武力攻撃を受けたハンセン病回復者1,235名とその家族や障害のある方々に緊急支援物資（1人当たり小麦25kg、食用油1リットル、洗濯石鹼1個）を配布することができました。

この支援により、人々は飢餓の恐怖から救われ、また、衛生環境が改善され健康を守る基盤が整いました。生活再建に対する希望は、人々に生きる意欲を取り戻しました。これにより、地域社会の中での彼らの立場も次第に安定しつつあります。

また、ENAPALの地域支部においては、緊急事態下での支援プログラム運営に関する貴重な経験が積み重ねられ、今後の活動に向けた組織力の強化が図られました。特に、ハンセン病に関連する複雑な問題に対応するための能力が向上したことは、大きな成果の一つです。



## ネパール

## ハンセン病回復者の自立に向けた教育・職業訓練支援

支援先 ラルガハンセン病病院・サービスセンター  
 事業期間 2023年11月1日～2025年3月31日（2023-2024年度事業）  
 支援額 ￥5,134,317（2023年度）

世界の平均識字率は2020年時点で86.8%ですが、ネパール全体では68%、ラルガ病院のあるマデシ州は63.53%で、女性の識字率はさらに低く、ハンセン病当事者の多くが読み書きや基礎的な計算ができません。事業を実施したネパール南部のマデシ州は貧困指数も国内で2番目に高く、コロナ禍の影響で多くの大人が職を失い、子どもたちの教育の継続が困難な状況に直面しています。

ラルガハンセン病病院・サービスセンターは1996年にオープンし、現在は総合病院として運営され、一般の患者から得られる診療費をハンセン病患者の診断・治療に充てています。同病院では、医療面でのケアだけでなく、退院後の患者がコミュニティで自立した生活を営むため、自助グループの運営や教育支援、職業訓練など、当事者のエンパワーメントにも力を入れています。

本事業では2023年11月から2025年の3月までの期間で、自助グループのメンバーへのノンフォーマル教育（読み書き、基礎的な計算、権利教育等）や、職業訓練（運転手、美容師、仕立職人、携帯

の修理等）、並びに、子どもたちが教育を継続するための教材費や試験受験料等の支援を行います。同時に女子教育に対するコミュニティの意識改革も目指します。

2023年度は、114の自助グループからグループメンバー88人のうち64人が非識字者という3つのグループを緊急優先対象として特定し、読み書き計算の教育を行いました。60人（85%が女性）がこのクラスに参加し、80%が自分の名前の読み書きと基本的な計算ができるようになりました。平行して、女子教育の重要性を学ぶためのセッションを39回実施しました。

職業訓練では、8人の若者が運転訓練を、8人の女性が美容/裁縫コースに参加し、修了証を取得しました。訓練を終えた若者は、次々と就職に成功しています。

2024年度には同様の支援を改良を加えつつ広げていく予定です。さらに30名の子どもたちの就学支援も行います。

